

新型コロナウイルス感染症の影響下にある看護学生の感染 予防技術に関する授業からの学び

鈴木朋子¹⁾*, 畑瀬智恵美¹⁾

¹⁾名寄市立大学保健福祉学部看護学科

【要旨】本研究は、新型コロナウイルス感染症の影響下にある看護学生が感染予防技術の授業後の学びとその活用を明らかにすることを目的に内容分析した。感染予防技術の授業からの学びは、【正しい知識の重要性】【感染予防技術の重要性】【医療従事者として行う感染予防技術】【日頃からの感染に対する意識の向上】【個人情報リテラシーの重要性】であった。看護職として感染予防についてどのように活用していきたいかについては、【基本的な感染症対策の徹底】【院内感染を防止】【身近な人に感染予防への呼び掛け】【プライバシーの保護】【明らかになってくる知識・技術を将来に活かす】であった。学生は、行動変容の体験により現実的に学ぶことができ、看護職としての役割や立場についても認識したと考えられる。

キーワード：看護教育、看護学生、感染予防技術、新型コロナウイルス感染症

I. はじめに

2020年5月、新型コロナウイルス感染症専門家会議では、新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式を示した。我が国においては、2020年2月27日小・中・高校には全国一斉に休講要請が出され、卒業式は、感染拡大防止の措置をとり例年に比べ縮小して行われたり、中止されたりした。また、大学においても、例年では対面で授業や演習を行っていたものが、2020年度から、遠隔授業が導入され、自宅等において一人で勉強する形態が多くとられてきた。新たな生活様式においては、久我

(2020)は、新型コロナウイルス肺炎への不安について全国の20～50歳代の男女6千人に調査した。その結果、約7割が非常に不安、やや不安と回答していたという報告があることから、看護学生についても同様に不安を感じている者もいると推察できる。

看護教育においては、感染予防の知識・技術は重要である。本学では1学年前期に「看護共通技術I」の科目において、スタンダードプリコーション(標準予防策)を中心に学習する。具体的には、単元の目標として、①感染予防の原則について理解できる、②感染経路別予防策について理解できる、③スタンダードプリコーションについて修得できる、

④感染源対策について理解できる、⑤無菌操作について修得できることを挙げ、表1の通り授業を行っている。

感染予防技術の講義や演習、実習に関する先行研究を概観すると、新たに導入した教育実践の効果を明らかににしたものとして、看護学生へN95マスクの装着手技習得に向けた講義・定量的フィットテストを導入した授業における評価(山下ら2017)、看護大学生を対象にワクチンにより予防可能な感染症に対する予防接種手帳の効果を明らかにしたもの(樋口ら2012)、手洗い演習において微生物学教員と連携し手指細菌培養を導入した実践報告(木津ら2009)などがある。また、感染看護における学生の意識の変化に着目した研究もみられる(北出ら2009; 梶谷ら2009; 窪田2004)。

さらに、手洗いに着目したものとしては、石綿(2007)の、演習目標の到達度からみた手洗い演習の学習効果を検討したもの、また、杉田ら(2005)の、看護学生を対象に衛生的手洗いの実態を把握したものが、他に、栗村(2013)の白衣清潔管理に着目したものもある。しかし、感染予防技術の授業全体の学びや効果に関する研究は見当たらない。

以上のことから、新型コロナウイルス感染症の影響で、新しい生活様式を取り入れるようにいわれ、不安もあり、感染対策により学習環境や生活環境が

2023年9月12日受付：2024年2月1日受理

*責任著者 鈴木 朋子

住所 〒096-8641 北海道名寄市西4条北8丁目1

E-mail: suzukito@nayoro.ac.jp

表1 感染予防技術の授業の概要

授業回数	学習目標	授業形態	内容
1	1.感染予防の原則について、説明できる 2.スタンダード・プリコーション(標準予防策)について、説明できる 3.感染経路別予防策について、説明できる	オンデマンド型講義	1.感染成立の要件 2.感染経路対策 スタンダード・プリコーション(標準予防策) 3.手指衛生 4.個人防護用具(PPE) 5.感染経路別予防策(接触・飛沫・空気感染予防策)
2	1.感染源対策について、説明できる 2.無菌操作について、説明できる	オンデマンド型講義	1.感染源対策(洗浄・消毒・滅菌) 2.無菌操作 3.感染性廃棄物 4.針刺し防止対策 5.感染管理における看護師の役割
3	スタンダード・プリコーション(標準予防策)について、正しく実践できる	自宅で動画を視聴し物品を代用し演習	1.石鹸と流水による手洗い 2.速乾性擦式手指消毒薬(水を代用)による手指消毒 3.手袋着脱(冬場の手袋を代用) 4.マスク着脱 5.ガウン着脱(冬場のコートを前後を逆にして代用)
4	無菌操作について、正しく実践できる	自宅で動画を視聴	無菌操作
5.6	スタンダード・プリコーション(標準予防策)について、正しく実践できる	学内で演習	1.石鹸と流水による手洗い(洗い残り状況の確認) 2.個人防護用具PPEの着脱(手袋・マスク・ガウン(予防衣を代用)の着脱) ①速乾性擦式手指消毒薬による手指消毒 ②手袋の着脱 ③個人防護用具PPEの着脱

異なる中で、看護学生は感染予防技術の授業を受けてどのような学びをしているのか、その学びを明らかにする。そうすることで、今後の講義や演習、実習や、今後の授業に活かす一助としたい。

II. 研究目的

新型コロナウイルス感染症の影響下にある看護学生が、感染予防技術の授業後の学びとその活用を明らかにすることを目的とした。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

質的記述的研究

2. 対象者

2020年度に感染予防技術の単元を履修した看護学科1年生50名

3. 調査期間

2020年11月

4. データ収集方法

無記名による自記式質問紙法

無記名であるため、個人が特定されることはないこと、質問紙の回答への協力は自由意志であること、回答内容については研究目的以外で使用しないこと、回答への協力を断ったことで、成績に関係したり、不利益がもたらされることはないこと、記入が負担に感じられた場合は、回答を中止してもよいことを文書で説明し同意を得る。

質問紙の返送は、本科目の提出物と同じレポートボックスの中に、レポートとは別にして提出する。質問紙の返送をもって、本質問紙への回答の協力に同意したと判断する。

5. 調査内容

・基本属性と背景

性別、年代、高校の卒業式は例年通りの実施であったか、高校で感染予防のための指導の有無

・感染予防技術の授業をうけて、学んだことや感想(自由記述式)

・看護職として感染予防についてどのように活用していきたいか(自由記述式)

6. データ分析方法

内容を客観的、体系的、数量的に記述するため、Berelson(1957)の内容分析の方法を用いた。自由記述の感染予防技術の授業をうけて、学んだことや感想と、看護職として感染予防についてどのように活用していきたいかについては、コード化、カテゴリ化した。具体的には、該当する箇所を抜き出したデータを意味内容が損なわれないように要約し、コード化し番号をつけた。コード化したものを集め、内容から繰り返し出てくるパターンや意味内容の類似性に注目して分類し、複数のコードが集まったものに相応しい名前を付けてサブカテゴリを抽出した。同様に、カテゴリを抽出した。本研究の全過程を通して、データ分析における一貫性・信頼性・妥当性において厳密性を保てるように共同研究者間で議論を行った。

7. 倫理的配慮

無記名であるため、個人が特定されることはないこと、質問紙の回答への協力は自由意志であること、回答内容については研究目的以外で使用しないこと、回答への協力を断ったことで、成績に関係したり、不利益がもたらされることはないこと、記入が負担に感じられた場合は、回答を中止してもよいことを文書で説明し同意を得た。また、集計結果の分析をもとに、関連学会で発表し論文として公表を行う予定であること、本研究は名寄市立大学倫理委員会の承認(受付番号 20-009)を得て実施することを説明した。

質問紙の返送は、本科目の提出物と同じレポートボックスの中に提出を依頼し、質問紙の投函をもって、本質問紙への回答の協力を同意したと判断した。

データは研究者以外が目を通すことのないよう厳重に管理し、研究終了後5年間保管したのち廃棄する。

IV. 結果

1. 研究対象者の概要

質問紙は、2020年度に感染予防技術の単元を履修した看護学科1年生50名に配布し、34名(68.0%)から回答があり、有効回答は34名(100%)であった。

研究対象者の性別は、男性4名(11.8%)、女性30名(88.2%)であり、年代では、10代32名(94.1%)、20代2名(5.9%)であった。高校の卒業式は例年通りの実施であったかの問いに対し、例年通りであったと回答した者は4名(11.8%)、例年通りでなかったと回答した者は29名(85.3%)、その他1名(2.9%)であった。また、高校で感染予防のための指導があったかの問いに対し、あったと回答した者は、18名(52.9%)、なかったと回答した者は、16名(47.1%)であった(表2)。具体的な高校で感染予防のための指導は、手洗い・消毒、マスクの着用の徹底などであった。

2. 感染予防技術の授業を受けての学び

研究対象者の授業を受けて学んだことを分析した結果、104のコード、23のサブカテゴリ、5のカテゴリが抽出された(表3)。以下、カテゴリは【】、サブカテゴリは《》、コードは「」で示す。

表2 基本属性

項目	n=34	
	人数	(%)
性別	男性	4 (11.8)
	女性	30 (88.2)
年代	10代	32 (94.1)
	20代	2 (5.9)
高校卒業時の卒業式実施方法	例年通り	4 (11.8)
	例年通りではない	29 (85.3)
	その他	1 (2.9)
高校における感染予防の指導	あり	18 (52.9)
	なし	16 (47.1)

授業を受けての学びは、【正しい知識の重要性】、【感染予防技術の重要性】、【医療従事者として行う感染予防技術】、【日頃からの感染に対する意識の向上】、【個人情報リテラシーの重要性】の5のカテゴリで構成された。

【正しい知識の重要性】は、感染予防に関する正しい知識が重要であるという学びに関連した《感染予防の大切さ》、《正しい知識・技術を身につけることができた》、《知識や方法の間違いに気づくことができた》、《スタンダードプリコーションの重要性》、《清潔部位と汚染部位の区別》、《感染成立の条件》、《感染経路対策の重要性》の7のサブカテゴリで構成された。「新型コロナウイルス感染症が流行している時期に授業を受けたので、感染予防が重要であることを強く感じながら学ぶことができたと感じている」や、「感染予防の大切さをみに染みて感じながら授業を受けた」、「新型コロナウイルスの感染予防で手洗いや消毒をする機会が多いので、正しいやり方を身につけることができてよかった」、「クルーズ船で流行した時、DMAT感染症の専門家が清潔な場所と不潔な場所が混ざってしまっていて大変良くない状態だと発信していたが、それがどれだけ恐ろしいことだったのか自分が感染予防技術の授業を受けて分かった」であった。

【感染予防技術の重要性】は、感染予防に関する技術習得が重要であるという学びに関連した《手洗いの大切さ》、《手洗いにおける洗い残ししやすい部位の確認》、《衛生的な手洗い方法》、《アルコール消毒の方法》、《个人防护用具の装着方法》の5のサブカテゴリで構成された。「コロナウイルスが流行しているため、授業で学んだ手洗いを実践し身につけよう」、「マスクの外し方を今までは気をつけたことがなかったが、今年に入って感染しない外し方を学んだ」であった。

【医療従事者として行う感染予防技術】は、医療従事者としての意識に伴う学びに関連した《看護師と

表3 感染予防技術の授業後の学び

コード数=104

カテゴリ 数字はコード数と 全体に占める割合	サブカテゴリ	代表的なコード
正しい知識の重要性 34(32.7%)	感染予防の大切さ	新型コロナウイルス感染症が流行している時期に授業を受けたので、感染予防が重要であることを強く感じながら学ぶことができた 自分自身が感染源にならないように、これ以上感染を広げないためにも、感染予防技術で学んだことを忘れずに、これからずっと大切にしていきたい
	正しい知識・技術を身につけることができた	正しい感染予防の仕方を学べた 新型コロナウイルスの感染予防で手洗いや消毒をする機会が多いので、正しいやり方を身につけることができてよかった
	知識や方法の間違いに気づくことができた	今までの感染予防の間違っていった部分や改善点がみえた 今までの間違った方法や知識を持っていたと気づくことができた
	スタンダードプリコーションの重要さ	患者から自分へだけでなく、自分を通して患者から患者への感染を防ぐためにも、しっかりとスタンダードプリコーションを実施していきたい 感染経路を断つことが大切で、私たちはスタンダードプリコーションをきちんと守ることが必要だと学んだ
	清潔部位と汚染部位の区別	クルーズ船で流行した時、DMAT感染症の専門家が清潔な場所と不潔な場所が混ざってしまっていて大変良くない状態だと発信していたが、それがどれだけ恐ろしいことだったのか自分が感染予防技術の授業を受けて分かった 清潔な部分と不潔な部分を分け、意識して看護をすることの大切さがわかった
	感染成立の条件	感染を成立させるためには6つの要件がそろわないといけないことを学んだので、一つでも防ぐことができれば感染可能性が減少すると思った
	感染経路対策の重要性	感染経路を防ぐために考えて行動することが必要だと感じた 感染源をどうにかするのでなく感染経路をしっかりたつことが重要であることを理解した
感染予防技術の重要性 28(26.9%)	手洗いの大切さ	手洗いは基本的かつ重要な予防技術なのでしっかり身につけたいと思った 正しい手洗いをを行うことの重要性を理解することができた
	手洗いにおける洗い残しや すい部位の確認	手洗いの授業の時に洗い残している場所を確認できたので、その場所を念入りに洗い、より効果のある手洗いができるようになったと思う
	衛生的な手洗い方法	普段なげなげやっている手洗いや消毒などは、正しい手順で行っていないと効果が半減してしまう事を学んだ コロナウイルスが流行しているため、授業で学んだ手洗いを実践し身につけよう
	アルコール消毒の方法	アルコール消毒の正しい仕方を学んだ 消毒の正しいやり方を学んだ
医療従事者として 行う感染予防技術 14(13.5%)	個人防護用具の装着方法	マスクの外し方を今までは気をつけたことがなかったが、今年に入って感染しない外し方を学んだ 今後、感染可能性を含んでいるものに触れる機会がある際には、個人防護用具を徹底したいと思う
	看護師として行う感染予防 技術	医療従事者を目指す者としての学びになった 看護師が患者に対して安全安心の技術を提供するためには、まず感染予防を徹底して行うことが重要なんだと感じた
	院内感染の可能性	ほんのちよつとのことでも、それが院内感染など大きなことに繋がってしまい、重大な問題を引き起こす事を学んだ 医療の場ではやはり感染予防が徹底されているんだなと実感した
日頃からの感染 に対する意識の 向上 27(26.0%)	医療における感染予防策	第3波の到来により医療現場がひっ迫してしまうと、防護用具の不足等、スタンダードプリコーションがままならない状況も発生しかねないと思った
	根拠に基づく技術の習得	根拠や効果を学んだことで、それらに基づいて技術を実践できるようになった 手洗い、手指消毒という1つ1つの行動にも、順番や方法があり、どれも根拠を知ることによって理解が深まった
	日頃からの感染予防意識	自分はもちろん周りにうつさないためにも、マスク、手洗い、アルコールなどのちよつとした対策を継続して続けるようにしたい
日頃からの感染 に対する意識の 向上 1(1.0%)	感染に対する意識の向上	看護職としてはもちろん、1人の人間としても感染予防に努める意識が持てた 確実な方法で自分も相手にも感染させないようにしようという気持ちが高まった
	コロナ禍のため理解しやす かった	このコロナ禍で学ぶことができてよかったと思った 医療用語もテレビのニュース番組を通じて一度耳にしてから授業を受けることで想像することができ、理解しやすかったように思う
	手指衛生の習慣化	学内だけでなく、家での手洗いも無意識的に行うようになった 今からすぐに実践できることを授業を通して学ぶことができた
個人情報リテラ シーの重要性 1(1.0%)	個人情報リテラシーの重要性	今回の新型コロナウイルスでは、発症してしまった人を責めない気持ちや、情報リテラシーも重要になると考えた

して行う感染予防技術》、《院内感染の可能性》、《医療における感染予防策》、《根拠に基づく技術の習得》の4のサブカテゴリで構成された。「第3波の到来により医療現場がひっ迫してしまうと、防護用具の不足等、スタンダードプリコーションがままならない状況も発生しかねないと思った」であった。

【日頃からの感染に対する意識の向上】は、コロナ禍における日頃からの感染に対する意識の向上に関する学びに関連した《日頃からの感染予防意

識》、《感染に対する意識の向上》、《コロナ禍のため理解しやすかった》、《手指衛生の習慣化》、《今からすぐに実践できることを学んだ》、《周囲の人に感染予防策を浸透させていく必要性》の6のサブカテゴリで構成された。《コロナ禍のため理解しやすかった》は、「このコロナ禍のため、非常にタメになる内容だった」、「このコロナ禍で学ぶことができてよかったと思った」、「医療用語もテレビのニュース番組を通じて一度耳にしてから授業を受けることで想

像することができ、理解しやすかったように思う」であった。

【個人情報リテラシーの重要性】は、患者の個人情報保護に関する学びに関連した《個人情報リテラシーの重要性》の1のサブカテゴリで構成された。これには、「今回の新型コロナウイルスでは、発症してしまった人を責めない気持ちや、情報リテラシーも重要になると考えた」というコードから導き出された。

3. 看護職として感染予防についてどのように活用していきたいか

表4より52のコード、8のサブカテゴリ、5のカテゴリが抽出された。以下、カテゴリは【 】, サブカテゴリは《 》, コードは「 」で示す。

看護職として感染予防についてどのように活用していきたいかは、【基本的な感染症対策の徹底】、

【院内感染を防止】、【身近な人に感染予防への呼び掛け】、【プライバシーの保護】、【明らかになってくる知識・技術を将来に活かす】の5のカテゴリで構成された。

【基本的な感染症対策の徹底】は、自分ができる感染症対策に関する学びに関連した《自分が感染源・感染経路にならないようにしていきたい》、《感染予防技術を正しく実践できるようにしていきたい》、《感染予防を徹底していきたい》の3のサブカテゴリで構成された。《自分が感染源・感染経路に

ならないようにしていきたい》は、「自分が感染源になるかもしれないという意識をもつ」があった。

《感染予防技術を正しく実践できるようにしていきたい》は、「不確かな知識や技術でなく、講義を通じて学んだ感染予防のことをきちんと実行できるようにしたい」があった。《感染予防を徹底していきたい》は、「意識を高くもって毎日の基本的な感染症対策を徹底していきたいと思う」であった。

【院内感染を防止】は、医療従事者として感染源にならないような学びに関連した《患者と自分自身を感染症から守る》、《院内感染を起こさないようにしたい》の2のサブカテゴリで構成された。《患者と自分自身を感染症から守る》は、「看護師が感染予防をできていないと、個人の問題だけでなく、たくさんの患者さんの命に関わるもの」があった。

《院内感染を起こさないようにしたい》は、「院内感染など、医療事故を起こさないようにしたい」であった。

【身近な人に感染予防への呼び掛け】は、周囲の人に感染予防意識を浸透させていく必要性に関する学びに関連した《身近な人に感染予防への意識を高められるよう呼び掛けていきたい》の1つのサブカテゴリで構成された。「ウイルスの流行が落ち着いたとしても、常に何かのウイルスに対応できるような予防策を人々に伝え続け、一人ひとりの「感染」

表4 看護職として感染予防についてどのように活用していきたいか

コード数=52

カテゴリ 数字はコード数と全体に占める割合	サブカテゴリ	代表的なコード
基本的な感染症対策の徹底 35(67.3%)	自分が感染源・感染経路にならないようにしていきたい	自分が感染源になるかもしれないという意識をもつ 自分が感染源・感染経路にならないようにしていきたい 自分から感染を広げないようにする 自身が感染しないということだけでなく、自身が感染経路にならないということも意識していこうと思う
	感染予防技術を正しく実践できるようにしていきたい	しっかりと感染予防をしなれば感染を広げてしまい、院内感染を起こしてしまう スタンダードプリコーションに基づいて、しっかりと感染予防していきたい 十分に手洗いをしたり1回1回消毒したり、感染に気をつけながら援助していきたい 授業で学んだ感染予防技術を実践できるようにしていきたい
	感染予防を徹底していきたい	不確かな知識や技術でなく、講義を通じて学んだ感染予防のことをきちんと実行できるようにしたい 日常的に予防に努めていきたい 危機感をもって行うことを心がけたい 徹底的な感染予防をしていきたい
院内感染を防止 6(11.5%)	患者と自分自身を感染症から守る	看護師が感染予防をできていないと、個人の問題だけでなく、たくさんの患者さんの命に関わるもの 患者から患者への感染防止だけでなく看護職本人も感染しないようにしたい
	院内感染を起こさないようにしたい	院内感染など、医療事故を起こさないようにしたい 看護職の人が感染症にかかると医療崩壊に繋がりがかねない
身近な人に感染予防への呼び掛け 9(17.3%)	身近な人に感染予防への意識を高められるよう呼び掛けていきたい	意識づけが大切だと思うので、感染予防への意識を高められるように身近な人には声をかけて行っていきたい ウイルスの流行が落ち着いたとしても、常に何かのウイルスに対応できるような予防策を人々に伝え続け、一人ひとりの「感染」についての認識を徐々に改善していけるといいと思う 自分が感染対策に取り組むのはもちろん周りにもよびかけられるようになっていきたい
プライバシーの保護 1(1.9%)	プライバシーを守りたい	感染症になった人のプライバシーを守ること
明らかになってくる知識・技術を将来に活かす 1(1.9%)	明らかになってくる知識・技術を将来に活かしたい	新型コロナウイルス感染症の感染予防技術を何年後に明らかになってくる反省点とともに学習し、将来の職に活かしたい

についての認識を徐々に改善していけると思う」であった。

【プライバシーの保護】は、患者の個人情報保護に関する学びに関連した《プライバシーを守りたい》の1のサブカテゴリで構成された。「感染症になった人のプライバシーを守ること」であった。

【明らかになってくる知識・技術を将来に活かす】は、将来明らかになる知識・技術とともに学びを活かすことに関連した《明らかになってくる知識・技術を将来に活かしたい》の1のサブカテゴリで構成された。「新型コロナウイルス感染症の感染予防技術を何年か後に明らかになってくる反省点とともに学習し、将来の職に活かしたい」であった。

V. 考察

学生が感染予防技術の授業を受けての学びと、学生が看護職として感染予防についてどのように活用していきたいか、新型コロナウイルス感染症がもたらす学びへの影響について考察し述べる。

1. 感染予防技術の授業を受けての学び

感染予防技術の授業を受けて学んだことにおいて、【正しい知識の重要性】や【感染予防技術の重要性】で、【医療従事者として行う感染予防技術】が抽出されたことは、これらが単元目標の、①感染予防の原則について理解できる、②感染経路別予防策について理解できる、③スタンダードプリコーションについて修得できるの項目であることから、感染対策により学習環境や生活環境が異なる中で、学生はこの授業で感染予防技術を学ぶことができたと考えられる。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により遠隔授業が導入され、講義は作成した動画を自宅で視聴するオンデマンド型講義、演習は自宅で演習の動画を視聴し、各自演習を行う授業形態とした。加えて手袋などの演習物品は、業者から手に入らず市中にも出回っていなかったため、冬場の手袋やコートを代用し行った。加えて「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」におけるレベルが変わり学内演習ができるようになったときに、再度実習室で感染拡大防止を図りながら、衛生的手洗いと个人防护用具（PPE）の着脱の演習を行った。例年では対面で講義や演習を行っていた授業の形態が変わったが、感染予防技術は学ぶことができたと考えられる。

さらに、授業を受けて学んだことにおいて、【日頃からの感染に対する意識の向上】、【個人情報リテラシーの重要性】が抽出されたことは、新型コロナウイルス感染症の影響下であることが学習を助け、学びを深めることができたのではないかと考える。そして、《コロナ禍のため理解しやすかった》や、新型コロナウイルス感染症に関連するコードが抽出されており、感染予防技術を通じた公衆衛生を学ぶことができたのではないかと考える。

高橋（2007）は「“感染看護”は、ナイチンゲール以来、看護職が行うべきもっとも基本的な看護業務である。その対処は、患者・医療従事者ばかりではなく、感染管理を必要とするすべての人、および病床環境、病院環境、感染管理が必要なすべての場所である。」と述べている。今回、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという環境下で学ぶことにより、学生はその看護職が行うべき基本的な看護業務を学ぶことができたのではないかと考える。

2. 看護職として感染予防についてどのように活用していきたいか

看護職として感染予防についてどのように活用していきたいかにおいて、【基本的な感染症対策の徹底】が抽出されたことは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、看護職としての役割や立場をより強く認識した結果ではないかと推察される。

さらに、【身近な人に感染予防への呼び掛け】、【明らかになってくる知識・技術を将来に活かす】が抽出されたことは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの影響を受け、学んだ科学的根拠に基づく感染予防技術を活かしていきたいと認識しているのではないかと考える。

加えて、【プライバシーの保護】が抽出されたことは、新型コロナウイルス感染症の影響により人権や風評被害のニュースを見聞きし、またプライバシーが守られていない現状を感じている表れだと推察される。

3. 新型コロナウイルス感染症がもたらす学びへの影響

梶谷他（2009）は、感染症看護の講義前後の看護学生の意識の変化を内容分析した中で、「講義前の感染症や感染症看護に対する漠然としたイメージが、講義で対象が明確になり、具体的な思考ができるようになっていく」と述べており、新型コロナウイルスに関連した様々な不安の中で、今回の感染予防技術の授業においても具体的な思考が出てきてい

ると考える。田島 (2013) は、「看護の考え方を明確にとらえ、それをベースに人間の生活行動と看護の学問的裏づけとの関連のなかで学修できるようにすることによって、看護実践につながる教育を創ることになる」とし、「この人間の生活行動については、自分自身の毎日の生活行動として体験しているもの」と述べている (p.81)。今回の研究においても、新型コロナウイルス感染症と、それによる感染拡大防止のための新しい生活様式によってもたらされた生活行動の体験が、看護実践につながる教育の一助となったと推察される。

以上のことから、新型コロナウイルス感染症の影響下であったが、この感染予防技術の単元目標としていた、感染予防の原則について理解、感染経路別予防策について理解、スタンダードプリコーションの修得については、学修目標を達成し、加えて、看護職としての役割や立場をより強く認識し、学んだ感染予防技術を活かしていきたいという思いにつながったと考えられる。

VI. 結語

本研究では、新型コロナウイルス感染症の影響下にある看護学生が、感染予防技術の授業後の学びとその活用を明らかにすることを目的として研究を行った。その結果、授業を受けて学んだことについては、104のコード、23のサブカテゴリ、5つのカテゴリが抽出された。また、看護職として感染予防についてどのように活用していきたいかについては、52のコード、8つのサブカテゴリ、5つのカテゴリが抽出された。そして、新型コロナウイルス感染症の影響で学習環境や生活環境が異なる中であったが、この感染予防技術の単元目標を達成し、看護職が行うべき基本的な看護業務としての感染看護を学ぶことができた。加えて、看護職としての役割や立場をより強く認識し、学んだ感染予防技術を活かしていきたいという思いにつながったと考えられる。新型コロナウイルス感染症と、それによる感染拡大防止のための新しい生活様式によってもたらされた生活行動の体験が、看護実践につながる教育の一助となったと考える。

謝 辞

本研究の実施にあたり、協力してくださった対象者の皆様に心より感謝いたします。

文 献

- Berelson B./稲葉三千男他訳 (1957) : 内容分析, みすず書房, 東京都.
- 栗村章弘 (2013) 看護学生の白衣清潔管理における意識変化及び行動変化感染予防講義の実施とその評価. (専)京都中央看護保健大学校紀要 20 : 31-38.
- 石綿啓子 (2007) 手洗い演習の到達度からみた学習効果. 高崎健康福祉大学紀要 6 : 39-49.
- 梶谷薫, 濱田明日香, 北出千春, 西村和子, 中村乃利子 (2009) 感染症看護の講義前後の看護学生の意識変化(第一報)講義前後のミニッツペーパーの分析. 日本看護学会論文集看護教育 39 : 358-360.
- 木津由美子, 鳥巢妃佳里, 小島悦子, 久川洋子, 菅原邦子 (2009) 感染予防「手洗い」の看護技術教育における学生の関心を引き出す教授方略の効果の検討. 天使大学紀要 9 : 101-111.
- 北出千春, 梶谷薫, 濱田明日香, 西村和子, 中村乃利子 (2009) 感染症看護の講義前後の看護学生の意識変化(第二報)ミニッツペーパーにおける教員のコメント分析. 日本看護学会論文集看護教育 39 : 361-363.
- 窪田マキ (2004) 基礎看護学実習における学生の感染予防に対する動機づけ実習終了後の意識調査を通して. 東京厚生年金看護専門学校紀要 1 : 36-39.
- 久我尚子 (ニッセイ基礎研究所) (2020) 新型コロナへの生活者の不安-全国6千名の定量調査から見えること, 不安を軽減させるには, <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=64044?site=nli> (参照2020年6月9日)
- 柴田貴美子 (2010) 病や障害を抱えた当事者が語る「当事者参加型授業」の現状と教育効果に関する文献レビュー. 文京学院大学保健医療技術学部紀要 3 : 23-31.
- 杉田久美子, 吉田芳子, 小西ゆかり, 三代理恵, 宮本良平, 西村忠史, 北摂総合病院院内感染対策委員会 (2005) 学生に対する手洗いの教育と実習の効果. 環境感染 20 : 129-132.
- 高橋泰子 (2007) 感染看護のエビデンス: ケア技術のエビデンス (深井喜代子), p.198. へるす出版, 東京都.
- 田島桂子 (2013) 看護学教育の過程: 看護実践能力育成に向けた教育の基礎 (田島桂子), p.81. 医学書院, 東京都.
- 樋口由貴子, 藤田稔子, 目野郁子 (2012) 学外で実習をおこなう大学生の感染症予防対策予防接種手帳の有用性の検討. 西南女学院大学紀要 16 : 45-50.
- 山下尚美, 久松桂子, 嶋野ひさ子, 大橋優美子 (2017) N95マスクの定量的フィットテストを導入した看護学生への教育実践報告. 松蔭大学紀要 2 : 55-62.

Original paper

Learning from the class on infection prevention skills for nursing students under the influence of the environment created by the new coronavirus infection.

Tomoko SUZUKI¹⁾,*, Chiemi HATASE¹⁾

¹⁾Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare Science, Nayoro City University

Abstract: This study was content-analyzed with the aim of clarifying the learning and utilization of infection prevention skills after the class on infection prevention skills attended by nursing students under the influence of the environment created by the new coronavirus infection. The learnings from the infection prevention skills class were “importance of correct knowledge”, “importance of infection prevention skills”, “infection prevention skills to be performed as a healthcare professional”, “increased awareness of infection on a daily basis”, and “importance of personal information literacy”. The students were asked how they would like to utilize infection prevention as nurses: “Thorough implementation of basic infection control measures”, “Prevention of nosocomial infections”, “Encouragement of infection prevention of those close to them”, “Protection of privacy”, and “Future utilization of knowledge and skills revealed to them”. It is thought that students were able to learn realistically through the experience of behavior change and recognized their roles and positions as nurses.

Key words: nursing education, nursing student, infection prevention skills, COVID-19